

遂に流血の惨事まで演出した

大電の争議疾風迅雷の勢、解決

第一箇條六項目の覺書を取交して

十六日夜十時半無事納まる

連日連夜警備隊と衝突し、遂に流血の惨事を見ても尙治まらず益々其衝の度を高めて居た大電の労働争議は漸く紛擾當事者の覺醒を促し十五日深更に至つて形勢俄然一變し茲に穩健なる手段の下に解決するの曙光を認むるに至り十六日は更に別項の如く田中警察部長、加々美特高課長、大電重交並に労働者と調停進捗したが同夜に至つて調停の商議は疾風迅雷的の勢ひではかぎり午後十時半に雙方の間に左の覺書が取交され争議が發以來十八日に亘つて紛糾を重ねた本問題も茲に愈々無事解決を告げた

覺書(其二)

一、此際復職を希望する者は全部復職せしむると但し事業の關係上人員淘汰を爲すは已むを得ざるも本争議に關しては犠牲者を出さざる事

【前項に對する大電の第二回覺書 本項の要求は前略よりあらざる】

覺書(其三)

- 一、労働条件に就ては労働團體と交渉し組合員各自は一切交渉を爲さざる事
- 二、労働團體とは會社に從業せる労働者百人以上を以て組織せる團體を謂ふ
- 三、會社内には數個の團體ある場合には各個に交渉を爲す事
- 四、會社從業員にして労働團體に加入せざる者は各個に交渉を爲すと
- 五、交渉不調の場合と雖も二週間以内は其の争議に關しては解雇を爲し又は同盟罷業を爲さざる事

に關しても覺醒者重なるに關つてあるが爲會社は本業の都を口實として二百七十名を解雇するらしい又覺醒兵二は唯しかつた覺醒員組合の團體交渉の職で五項に分ち

以てめ會計回差を儲ける會社職を儲けて居る職員に於ける五項を連しての職員百人以上を解雇せしめ労働條件は團體交渉組合員各自は一切交渉を爲さざる事とすれば二週間以内は調停開て廢止より又同盟罷業をないといふ由合せて

大電から言へば雙方の歩み寄り言つてよい、但し此の覺書三項の覺醒員組合に對しては社が同盟罷業の報を見たり内部の世に警官を動かしたり大阪市の警察に力並に其力の太動をやつたと思ふと更ながら事件の推移が顧みられる

ある労働者の長は労働員組合の提出條件中の第五項即ち今回の要求を山並に其の解決後に於いて一切犠牲者を出さざることを誓へたもので本文に復職を希望する者は全部復職せしむると労働して労働者の面目を失くせざるが旨書は事業上人員淘汰は已むを得ないとして會社の面目を立終りに本争

友愛會側の談

島、東兩氏交々今回罷業の感想を語る

右に關し友愛會部を訪ふ幹部の感想を聞いたが何分事は即通夜後速く嚴重なる態に手を打つた事とて同會内にもまた公式的の談話を交し居らざる際、同會所に出向した同會會長島、東兩氏同春日出事部長東出の附

ら善に労働者對大電の形にまで變て見ゆる程労働者全體の立派な結果を見ました、其上等労働團體は勿論八方有志から多大な寄附物まで集つたことは是亦今日まで例を見ない個々な現狀でありました、何と覺醒の態度ですか、勿論御覽の如く赤衛運動に對する準備は充分のやうにも見えました、取言論の發表即ち覺醒會に對する取締の如きは今日まで見れば

